

平成 29 年度 香川大学 瀬戸内圏研究センター 学術講演会

[本城ゼネラルマネージャー]

皆様、お忙しいところお集りいただきまして、ありがとうございます。ただ今より、平成 29 年度 香川大学 瀬戸内圏研究センター 学術講演会を開催したいと思います。

それでは、まず、開会の挨拶を多田邦尚センター長よりお願いいたします。

[多田センター長]

皆さんこんにちは、瀬戸内圏研究センターのセンター長をしております多田です。今日は私達の学術講演会にお越し下さりまして、ありがとうございます。

瀬戸内圏研究センターでは毎年 11 月か 12 月に学術講演会を開催していましたが、今年は諸事情で 1 月に開催することになりました。この学術講演会の趣旨は市民の皆様方に、あるいは大学の関係者に瀬戸内圏の抱える諸課題を認識していただき、興味を持っていただくことを目的の一つとしています。もう一つは瀬戸内圏研究センターに関わる教官が自分達もそういう諸課題について勉強するという 2 つの目的を持って、毎年開催しております。

ご存知のように瀬戸内圏研究センターには、歴史・文化・観光グループ、地域医療グループ、海の環境グループの 3 つの研究グループがあります。

主に、歴史・文化・観光のグループでは瀬戸内圏のいろいろな島の歴史や文化を掘り下げ、観光資源として生かすことを考えてやってきました。しかしながら、今、瀬戸内海の島々はどんどん人口が減って高齢化が進んでおり、島の診療所が閉鎖されていくという問題が起きています。これは 2 つ目の医療グループの問題ではあるのですが、医療だけでなく、もう少し幅を広げて島興しであるとか、島をどうすれば活性化できるのかといったことも含めて、考えていかなければならないと思います。そこで、瀬戸内圏研究センターでは 29 年度に離島医療福祉研究会を立ち上げて、これらの問題についての研究を始めました。

国立大学法人香川大学

平成 29 年度 香川大学
瀬戸内圏研究センター学術講演会

瀬戸内圏の海、島、健康を学ぶ

日時
平成 30 年 1 月 16 日 火
13:00~17:00

会場
E-とびあ・かがわ
BBスクエア
(高松市サンポート・高松シンボルタワー タワー棟5階)

■主 部
香川大学瀬戸内圏研究センター

■お問い合わせ
香川大学 学術・地域連携推進室 研究協力グループ
TEL:087-832-1316
FAX:087-832-1319
E-mail: tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp

香川大学瀬戸内圏研究センターのホームページでもご案内しております
<http://www.kagawa-u.ac.jp/setouchi/>

参加費無料

今日はその意味もあって、これまでは観光ということに力を入れた発表をお願いしてきた歴史・文化・観光グループですが、まず、最初に愛媛県社会福祉士会の島崎さんに「過疎地における地域福祉活動の取り組み」のお話をして頂くことにしました。

次に、地域医療グループですが、株式会社かもめやの小野社長に「遠隔医療にドローンを活用することをめざしている」というお話しをして頂くことにしました。

最後に海グループ。「水がきれいになりすぎて貧栄養、すなわち海水中のリン濃度が低くなって藻場が衰退する。すると、それによって魚の資源量が減ってしまう」という話題が長崎県五島列島にもあります。これはまさしく瀬戸内海の海水中の窒素濃度が低下して、我々、香川県沿岸でノリが取れなくなった、ノリが色落ちを起こすようになったという話と全く同じだと思います。そこで、創価大学の戸田先生に「五島列島の藻場の修復事業」のお話をして頂くことにしました。

新年早々で皆様もお忙しいところ、この講演会に参加して頂きまして、本当にありがとうございます。今日は少し長丁場になりますけれども、夕方の 5 時ぐらいまで、どうかよろしくお願いします。

[本城ゼネラルマネージャー]

多田先生ありがとうございました。それではゼネラルマネージャーをしております本城の方でこの会の進行をさせていただきたいと思います。